

平成 21 年度 博士前期課程学位論文要旨

学位論文題名

**「コミュニケーションツールとしての精神科デイケア初期適応質問紙」と
「精神科デイケア初期適応援助に関するスタッフチェックリスト」の
作成と妥当性に関する研究**

学位の種類： 修士（作業療法学）

人間健康科学研究科 博士前期課程 人間健康科学専攻 作業療法科学系

学修番号 08896602

氏名： 上原 栄一郎

(指導教員名：山田 孝 教授)

平成 16 年度の精神科病院における精神科デイケア(以下DC)施設などの調査によると、DC設置率は約 6 割に達し、さらに診療所DCなどを含めると 1380 施設に増加している。こうした中で退院直後や初参加のDC利用者は、慣れない集団の中で緊張と不安を感じ、目標や集団価値を共有できず中断する人々が多い。精神科地域リハビリテーションにおいて、初期のDC利用者が治療環境に適応できるか否かは、数少ない社会資源利用の可否につながると考えられ、初期適応の評価と援助方略は研究視点として欠かすことができない。

池淵らはDC利用者の約 30~40%に医療中断がみられ、林らは医療中断者は利用初期の 1~3 週間に多いと報告している。ほかの多くのDC関連書籍においても、この時期は動機や目標、家族関係、援助スタッフ、プログラム内容、環境、地理的要因などが関連し、基本的援助である面接やプログラム設定などを丁寧に行うことが重要であると総説的に指摘されている。また、精神科における評価として、精神障害者社会生活評価尺度(Life Assessment Scale for the Mentally Ill)などで客観的に評価する方法はあるが、参加安定後の状態評価であり、初期適応に焦点をあてた要因検討や援助方略を的確に示した評価や論文は少ない。初期に焦点をあてた本研究は、初期状態を早期に評価し援助することで、その後の安定や中断防止が見込まれ、臨床的に利用価値が高く、意義ある研究視点と考えられる。

本研究では、初期適応をDC利用開始直後から早期で、医療中断のリスクを背景に、不適応の可能性が高い時期と定義し、その初期適応過程の評価と援助のために、「精神科デイケアへの初期適応質問紙」を Consensus method による 3 段階の研究過程で開発した。Consensus methods は科学的根拠が不足し、誰もが納得できるような結論が出ていない事柄を検討する方法であり、統計的レビューと比べてより幅広いさまざまなタイプの研究結果を扱うとされる。また、保健医療の研究分野では、Consensus method の手法として Nominal group technique および Delphi 法がよく用いられる。今回、これらの研究方法を段階的に活用し、初期適応の評価法と援助に関するガイドラインを作成し、質問紙項目の内容的妥当性を検討した。

第 1 段階は質問紙項目試案の作成、第 2 段階は精神科デイケアスタッフ 10 名による専門職の会合の開催、第 3 段階はオンライン全国アンケート調査を行い、初期適応の定義、評価や援助手段の方略やツール開発のコンセンサスを得た。最終的に、当初の質問紙開発について検討を加え、「コミュニケーションツールとしての精神科デイケア初期適応質問紙」48 項目と、「精神科デイケア初期適応に関するスタッフチェックリスト」35 項目に収められ、研究過程で合意が得られたものと判断した。